

愛媛県の地震

2022年（令和4年）11月

目次

1. 愛媛県周辺の震央分布図	1
2. 地震概況（11月）	1
3. 愛媛県で震度1以上を観測した地震（11月）	2
4. 愛媛県で震度1以上を観測した地震 の震度分布図（11月）	2
5. 地震一口メモ 長周期地震動に関する観測情報について	3

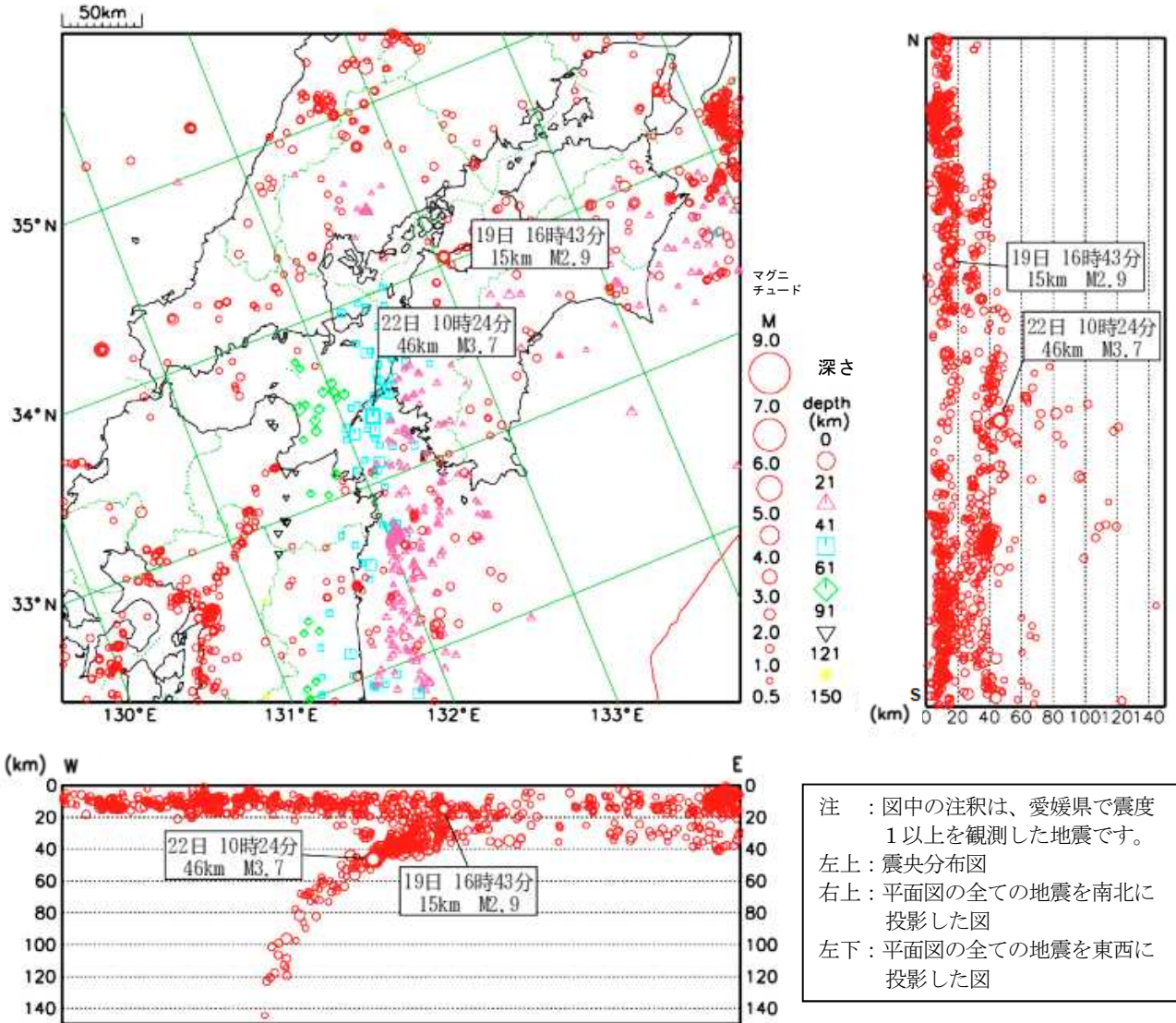
本資料に記載した震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は、暫定値です。これらは、後日、再調査のうえ修正することがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

松山地方気象台

1. 愛媛県周辺の震央分布図 [2022年11月1日~11月30日]



注：図中の注釈は、愛媛県で震度1以上を観測した地震です。
 左上：震央分布図
 右上：平面図の全ての地震を南北に投影した図
 左下：平面図の全ての地震を東西に投影した図

震央分布図は地震が発生した場所を地図上でプロットしたものです。地震は地下で発生しますのでシンボルマークの形を深さに応じて変えています。○より◇の方が深い場所で発生した地震です。また、シンボルマークの大きさで地震の規模（マグニチュード）を表現しています。

2. 地震概況（11月）

今期間に、上図の震央分布図内の領域で決定した地震のうちM2.0以上の地震の回数は68回（先月は62回）、愛媛県内で震度1以上を観測した地震は2回（先月も2回）でした。

19日16時43分 瀬戸内海中部の地震（深さ15km、M2.9）により、愛媛県今治市で震度1を観測しました。

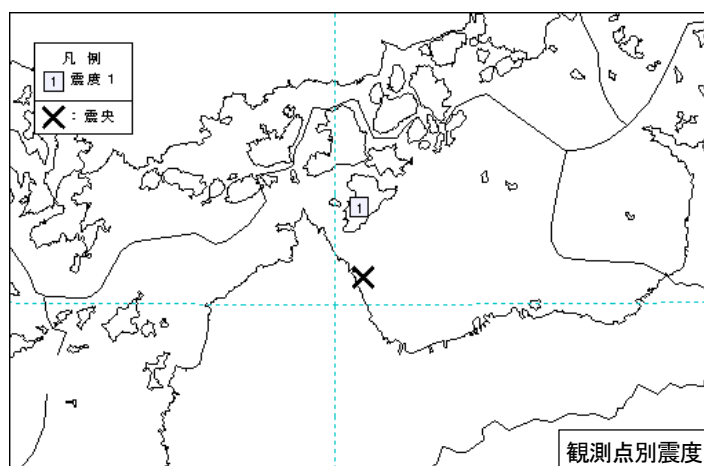
22日10時24分 豊後水道の地震（深さ46km、M3.7）により、愛媛県西予市で震度2を観測したほか、愛媛県、高知県、山口県、大分県で震度1を観測しました。

3. 愛媛県で震度1以上を観測した地震（11月）

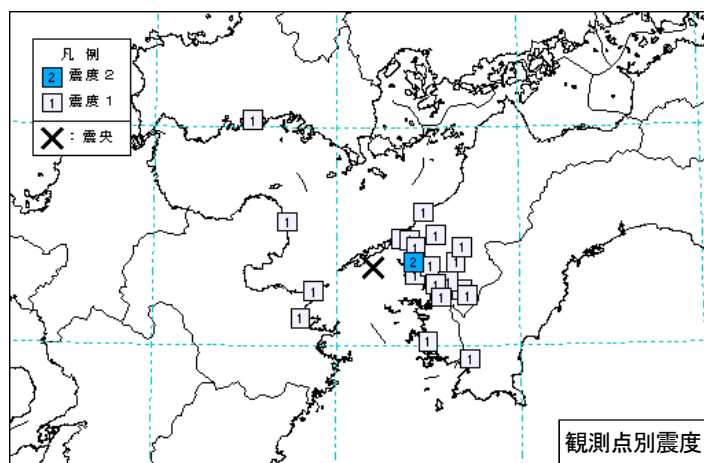
震源時（日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード	最大震度
愛媛県内各地の震度						
2022年11月19日16時43分	瀬戸内海中部	34° 02.4' N	133° 03.0' E	15km	M2.9	最大震度1
----- 地点震度 -----						
愛媛県 震度 1：今治市吉海町*						
2022年11月22日10時24分	豊後水道	33° 21.3' N	132° 12.1' E	46km	M3.7	最大震度2
----- 地点震度 -----						
愛媛県 震度 2：西予市三瓶町*						
震度 1：宇和島市丸穂*、宇和島市吉田町*、宇和島市三間町*、八幡浜市五反田*、 八幡浜市保内町*、大洲市肱川町*、大洲市長浜*、大洲市大洲*、伊方町湊浦*、 松野町松丸*、西予市野村町、西予市宇和町*、西予市明浜町*、愛南町柏*、 愛媛鬼北町近永*						

注：*印は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

4. 愛媛県で震度1以上を観測した地震の震度分布図（11月）



11月19日16時43分 瀬戸内海中部



11月22日10時24分 豊後水道

5. 地震一口メモ

長周期地震動に関する観測情報について

地震が起きると様々な周期を持つ揺れ（地震動）が発生します。ここでいう「周期」とは、揺れが1往復するのにかかる時間のことです。南海トラフ地震のような規模の大きい地震が発生すると、周期の長いゆっくりとした大きな揺れ（地震動）が生じます。このような地震動のことを長周期地震動といいます。

気象庁では、地震発生後直ちに震度情報を発表していますが、震度は地表面付近の比較的短い揺れを対象とした指標で、高層ビル高層階の揺れの程度を表現するのに十分ではありません。このため、高層ビル内での的確な防災対応に資することを目的に、概ね14、15階建以上の高層ビルを対象として、長周期地震動に関する情報を提供することとしました。

気象庁では、地震時の人の行動の困難さの程度や、家具や什器の移動・転倒などの被害の程度を基に長周期地震動による揺れの大きさを4つの階級に区分した長周期地震動階級という指標を新たに導入しました。この長周期地震動階級を用いて、長周期地震動により高層ビル高層階で生じたと見られる揺れの大きさの程度や被害の発生可能性等についてお知らせする長周期地震動に関する観測情報を提供しています。

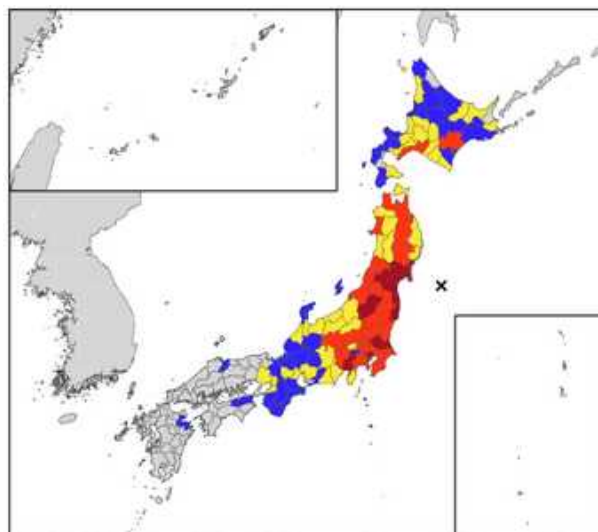
長周期地震動に関する観測情報は、施設管理者や低層階の防災センター等が高層階における被害の発生可能性等を認識し、防災対応を行うための判断支援に利用していただくことを想定しています。また、高層階の住民の方々が、震度とは異なる揺れであったことを認識していただくことを想定しています。

長周期地震動に関する観測情報

<https://www.data.jma.go.jp/eew/data/ltpgm/index.html>

長周期地震動階級	人の体感・行動	室内の状況	備考
長周期地震動階級1 (やや大きな揺れ)	室内にいたほとんどの人が揺れを感じる。驚く人もいる。	ブラインドなど吊り下げものが大きく揺れる。	-
長周期地震動階級2 (大きな揺れ)	室内で大きな揺れを感じ、物につかまりたいと感じる。物につかまらなと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	キャスター付き什器がわずかに動く。棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。	-
長周期地震動階級3 (非常に大きな揺れ)	立っていることが困難になる。	キャスター付き什器が大きく動く。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	間仕切壁などにひび割れ・亀裂が入ることがある。
長周期地震動階級4 (極めて大きな揺れ)	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされる。	キャスター付き什器が大きく動き、転倒するものがある。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。	間仕切壁などにひび割れ・亀裂が多くなる。

長周期地震動階級関連解説表
(高層ビルにおける人の体感・行動、室内の状況等との関連)



長周期地震動階級の凡例: ■ 階級1 ■ 階級2 ■ 階級3 ■ 階級4

長周期地震動に関する観測情報の発表イメージ
平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の例

図の出典: 長周期地震動に関する情報について

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/choshuki/choshuki_eq4.html